

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第26回 志望校の過去問はいつ？

「志望校の過去問はいつ解くのがいいですか」というのも、受験生からよく聞く質問です。受験生の中には、「直前までやらず、最後に力試しに使う」という生徒もいます。もちろん、それで、すらすらと解くことができ、自信を持って受験する、というのなら試験直前でいいでしょうね。でも、多くの場合、そうはいきません。

「あれっ、こんな問題はどのように考えればいいのか？ 分野すら分からない。」

「こんなに複雑な計算はとも時間内にできそうにない！ もっと練習すべきだった。」

「この分野は少し手薄だと思うけど、もう試験が直前に近づいているので勉強する時間が足りない!!」

なんていうことになるかもしれません。

志望校の過去問はなぜするのか、その目的をはっきりとさせないと、その意味すら怪しくなってきます。

- ① どのような難しさの問題が出されているかを知りたい。
- ② どのような分野の問題が出されているかを知りたい。
- ③ どのくらいの計算量かを知りたい。

もちろん、同じ問題が出されるわけではないのですが、毎年受験する生徒の学力が急に大きく変わることは考えられないので出題する問題の難しさも大きく変わるとは考えられません。出題範囲はもちろんのことそれぞれの大学により試したい学力、出題しやすい分野がありそうです。それに問題数は、年によりあまり変化しないし、要求される計算量も大きく変わらないことが多いようです。もちろん、例外はありますが)

①～③を目標にするのなら、まだこの分野は勉強が足りないぞ、とか、もっと積分の計算に習熟しないと、など気づいたことに十分手当てができるうちにやっておかなければなりませんね。

ということになれば、2学期半ばあたりが、ちょうどよい時期かもしれません。いずれにせよ、

弱点等が分かることが過去問の勉強の大きな目的

とするなら、

弱点補強がまだまだ余裕を持ってやれる時期に過去問を勉強する

が目安になるということです。

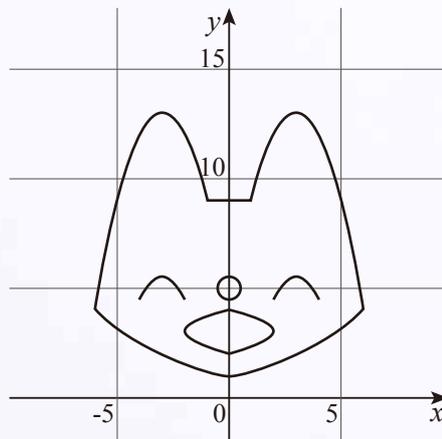
出題傾向なんて幻想だ、とおっしゃる方もいるようですが、百歩譲って、幻想だとしても、受験生に勉強の指針、方向性を与えることになります。暗闇の中で闇雲に進むより何らかの方向が示され、そちらに進むほうが受験生にとって勉強しやすいことは確かですね。



では、前回、前々回に引き続き、「勝手に！第3回大学入試問題検定！！」

上級問題

次のようなグラフ(?)が答となる入試問題がこれまでに出题されています。出題年度と大学名を以下の選択肢から選んでください。



- (選択肢) ① 1986年度 秋田大学教育学部 ② 1987年度 電気通信大学
③ 1988年度 京都教育大学 ④ 1989年度 九州芸術工科大学
⑤ 1990年度 宮崎大学教育学部



前回の≪「勝手に！第2回大学入試問題検定！！」中級問題≫の答は②でした。

学校法人 河合塾 数学科専任講師 大竹真一